

平成21年3月27日

## 環境と資源（発言メモ）

仲本 豊

## 1 「環境」

将来像のイメージ 「美しい自然と沖縄らしい風景に囲まれた島」

復帰後約40年間で様々な開発・豊かな生活への対価として、失った環境（特に干潟、藻場、サンゴ、浅海域等の海）を取り戻す取り組みが重要。

- ・「島」の原風景や環境の修復・再生を促進する「自然再生型」「環境創造型」の事業
- ・ミチゲーション

等を取り組みの基本方向に位置づけ強力に推進する必要がある。

ミチゲーション：開発事業等に伴う自然環境への影響を軽減するため、影響の最小化、自然環境の修復・再生や代替となる施設（空間）の整備などを行う

## 2 「資源」

将来像のイメージ 「・・・安全・安心な島」「・・・豊かな島」

島嶼県の懸念 食料自給率（カロリーベース）28%、エネルギー自給率0.5%

- ・不測の事態をも想定する視点が大切

## (1) 「食」と環境

- ・農林水産は経済合理性の観点からだけでは、維持・発展することは困難
- ・地産地消の仕組みを消費者・実需者とともに作り上げることが、沖縄観光の魅力に繋がる。（沖縄健康長寿食と豊かな田園風景）
- ・資源として、「農地」「漁場」づくり、「人（担い手）」づくり
- ・「水」資源の確保が重要（生活水の高次処理で農業等にフル活用）  
／「水」資源のリサイクル

不測の事態が起きても、上記の資源があれば、安全・安心／豊かな島

## (2) 「エネルギー」と環境

- ・エネルギーも資源価格が乱高下傾向が強まる中、経済合理性の観点からだけでは危険
- ・公共交通機関の電化・ハイブリッド化、鉄軌道の導入、レンタカーのエコ化  
化石燃料への過度な依存を多少でも緩和
- ・省エネの徹底、太陽光発電、風力発電等を可能な限り推進・活用  
事業所、共同住宅や一般住宅に普及するようインセンティブ、努力義務化
- ・その他未利用エネルギーの開発  
／ガス田、メタンハイドレード、バイオマス（廃棄物利用）

エネルギーの地産地消